



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ加盟各社 御中

令和 5 年 7 月 2 8 日

岡 山 大 学

岡山大学病院に「自己注射サポート外来」を開設

岡山大学病院は令和 5 年 7 月 5 日から、総合内科・総合診療科に「自己注射サポート外来」を開設しました。患者さん自身で注射を行う「自己注射」は、昨今の生物学的製剤による治療の広がりもあり、対象となる疾患が日々拡大しています。一方で、薬剤の専門性の向上とともに、患者さんに対する安全で確かな注射方法の指導が重要で、指導にあたる看護師など医療従事者の負担が大きくなってきているという現状もあります。

今回設置した「自己注射サポート外来」では、自己注射の指導が可能な看護師、薬剤師を配置し、自己注射処方医からの依頼を受けて、自己注射の導入や継続における指導とサポートを行います。

同科で一括して管理することで、質やレベルに差のない安全な指導、自己注射に関わる医療者の育成、自己注射関連物品の共有化によるコスト削減などにつながり、患者さんにとっても職員にとってもメリットが大きいと考えます。

【現状】

自己注射は医療行為であるため、本来は医療機関で行う必要がありますが、厚生労働省が承認した薬剤に限り、患者さん自ら注射をすることが認められています。病院内で主治医または看護師、薬剤師などの医療従事者から指導を受けて、患者さんご自身やご家族で注射をしていただきます。代表的なのが、糖尿病患者さんが行うインスリン治療ですが、近年ではさまざまな自己注射製剤が開発され、その対象は糖尿病のみならず、ホルモン治療や、関節リウマチ、潰瘍性大腸炎、片頭痛、骨粗鬆症、アレルギー疾患など幅広い分野に広がっています。

昨今の生物学的製剤や注射機材の改良により、今後も対象となる疾患や診療科は増加・拡大することが予想されます。一方で、注射機材の改良の進化により、薬剤の専門性の向上とともに安全で確かな注射方法の指導が重要となり、指導にあたる看護師や薬剤師らの負担が大きくなっているという現状があります。また、自己注射の指導をする際は、患者さん一人ひとりの日常生活動作（ADL）や生活背景も考慮しながら、患者さんの理解度、生活環境等の情報を得るための統一した問診や指導が必要になりますが、自己注射で治療する疾患ごとに取り扱う診療科が異なるため、統一した内容での指導が難しいという課題がありました。

【設置の意義】

今回、総合内科・総合診療科内に設置した「自己注射サポート外来」では、自己注射の指導が可能な看護師、薬剤師を配置し、自己注射処方医からの依頼を受けて、患者さんへの自己注射の手技指導とサポートを行います。専門外来として一つの診療科に集約して対応することで、①診療科間で差異のないスムーズで安心できる指導を受けられるという患者の視点、②質の高い指導ができるという医療安全上の視点、③指導看護師・薬剤師をはじめとする自己注射に関わる医療者の育成と



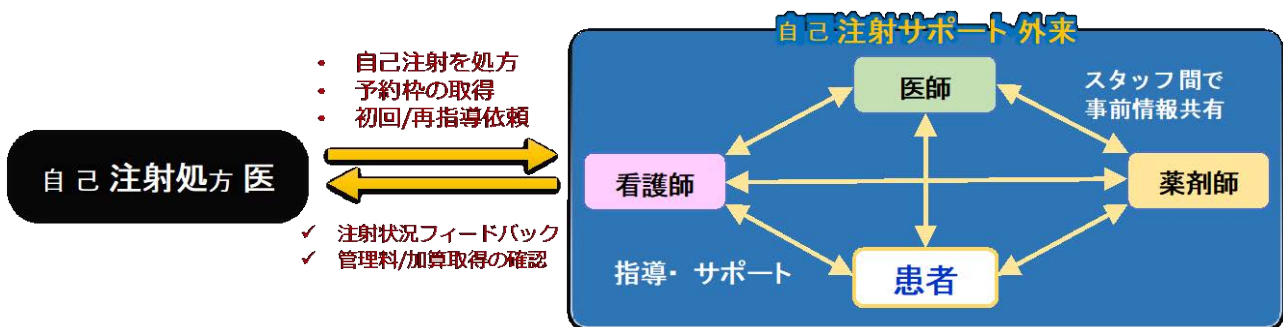
PRESS RELEASE

いう教育上の視点、④診療科間での自己注射関連物品の共有化により、過剰な注文を削減しコストや資源面に対するSDGsの視点、⑤在宅自己注射指導管理料・導入初期加算・在宅療養指導料といった自己注射に関連した保険点数を適切に算定するという病院経営上の視点など、患者・医療者・病院にとってそれぞれにメリットがあります。

【自己注射サポート外来の流れ】

自己注射処方医（院内および院外）から、自己注射に関する指導依頼を受け、総合内科・総合診療科の診察室で、自己注射指導に関わる医師・看護師・薬剤師が予約制で対応します。毎週水曜日の午後に外来を開設しており、同科への予約取得が必要です。

指導は、看護師と薬剤師が薬剤ごとのパンフレットや動画、デモ機を用いて注射方法を丁寧に説明します。薬剤によっては処方された注射を用いて、患者さん自身で実際に注射します。すでに自己注射を行っている患者さんへは、注射手技の確認と再指導も行います。



<お問い合わせ>

岡山大学病院 総合内科・総合診療科

安田 美帆（助教）・本多 寛之（医局長）

大塚 文男（教授）

（電話番号）086-235-7342



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。